

信仰の祝福 (マルコ 9:14-29)

自分が霊媒師になるために母親を殺さなければいけないということで、恐ろしい事件が起きました。また、スキャンダルに耐えられなくて、次の世界に行こうと同意の上で家族が心中を囚ったというニュースも耳に入っています。また、別れた恋人が自分の思いのままにならなかったのも、待ち伏せしてその人を刺し殺してしまったというニュースもありました。その他にも物騒なそういうニュースがたくさん最近流れています。今に始まったことではありませんけれども、それこそ霊的な問題による結果として、そういう現象が起きているわけです。人はみな霊的な問題を抱えて生まれます。最初はそれが表に現れないまま、埋もれているままの状態です。しかし、何かのきっかけでそれが表に現れようとするときに、自分の理性でそれを抑えて包装し、その問題が隠れている段階があります。しかし、少し進んでいきますと、結局、理性によってもコントロールできない状態になるので、自分でも周りから見ても判るような症状になります。そして、究極的には完全に悪霊に取り憑かれ、悪霊の捕虜になってしまい、右にも左にも何もできないというような状態になってしまいます。今日の聖書の箇所が登場している人がこのような段階まで来ているのではないかと思います。しかし、極端に悪霊に取り憑かれたと分かるような状況まで行かなくても、その根底の方に神様を離れた私たちは霊的な問題を抱えて生まれるから、それがいろいろな段階を経て現れるものだということをまず覚えていきましょう。なので、そのような霊的な問題は、絶対解決不可能な問題です。そして、なんとか頑張って解決したと思っても7倍もひどくなってしまう問題だということも覚えなければなりません。と言いますのは、人の霊的な問題というのは、神様だけが解決できることであり、神様がキリストを通して神の国が臨まれるようにして唯一、解決できる問題だという意味なのです。もう一度言います。神様だけに解決できるし、その神様がキリストを通して神の国を臨ませることによってのみ解決できる問題です。言い換えますと、信仰によってのみ解決できるものだという意味にもなるものです。なので、今日この聖書を中心にしてどのような信仰によって、この誰にも解決できない霊的な問題を解決することができるのかということを確認していきたいと思います。

1. イエス様をキリストと信じる信仰こそ、霊的癒しの鍵となる。

まず第一は、イエス様をキリストと信じる信仰こそ、霊的な癒しの鍵となるものです。

今日の聖書に取り上げられている信仰という言葉の意味は、まずそういう意味がそこにあるんですね。イエス様をキリストと明確に信じる信仰こそ、誰にも解決できない霊的な問題を癒すための鍵となります。

1) 弟子たちの混乱(18-19)

しかし、イエス様が変化の山から下りてみると、弟子たちが悪霊に取り憑かれている人から悪霊を追い出すことができなかつたので、律法学者と「なにそれ、偽物じゃないのか。イエスってなんなの」という議論にたぶんなっていたと思います。つまり、変化の山に連れて行かれた選り出された3人の弟子でもエリヤもモーセもイエスもというふう思うぐらいなので、その他の弟子はいまだに混乱している状態です。イエス様がキリストだという明確な信仰を持つことができなければ、仕方がなくイエス様を今まで通りにイスラエルのヒーロー、英雄のように扱うようになります。あるいは有名な力ある預言者の一人だという風に思うようになるでしょう。その他にもイエス様に対してキリストのほかのなにかというイメージを持つようになります。となると、自分では良い思いでやろうとしても、結局は自分の持っている実力で、今まで勉強してきた知識によって、あるいは経験したこと、時には自分の人柄、人格などをもってそれを問題にぶつけようというふうにならざるをえません。だから霊的な問題には、これっぽっちも通じないし、効かなくなってしまう。今、弟子たちにある状況がたぶんそのような状況だったのでないでしょうか。弟子たちはいまだにイエス様にそのように従い、さまざまな奇跡を見て、イエス様のお話を聞いたにも関わらず、いまだにイエス様をキリストと明確に知り、また告白する段階まで来ていません。だから、キリストに対して、イエス様に対して、混乱している状態でした。イエス様は彼らが思っているヒーローでも、預言者でも、偉い立派な誰かでもありません。

2) 王(創世記 3:15), 祭司(出エジプト 3:18), 預言者(イザヤ 7:14)

イエス様がキリストということは、イエス様は創世記 3:15 に預言されている蛇の頭を踏み砕くことができる女の子孫、悪魔のしわざを打ち壊すことができる唯一のキリスト、真の王様です。それがイエス様はキリストという意味なのです。大統領にも学者にもお医者さんにもできないことです。蛇の頭を踏み砕く、その方なんだ。女の子孫、真の王様なんだ。イエス様は出エジプト 3:18、罪人の罪を背負って身代わりとして贖いのいけにえとしてご自分を捧げることで、人間の罪と呪いとわざわいと地獄の運命を完全に砕いてしまうキリストなのです。真の祭司です。それがイエス様をキリストと知り、信じることなのです。そして、イエス様はイザヤ書 7:14、処女が身ごもって子どもを産む。その名をインマヌエルと言いなさい。その意味は、主が私たちとともにおられる。神様を離れた人間が、さまようしかないし、滅びるしかなかった罪人の私たちが、そのすべてが清められて、また神様と一緒にすることができる道、いのちそのものなのです。だからイエス様は、真の預言者なのです。誰も何をどうしてもインマヌエルの祝福とは関係ありません。キリストだけなのです。そして、人間が神様のいのちの祝福に預からない限りは、どんなに立派に頑張っても、その人は地獄の運命のままなのです。悪魔サタンから、霊的な問題から自由になることなどできません。しかし、イエス様が人の霊的な問題を根本から解決するために、この世に送られてきたキリストその方なのです。イエス様は真の王様であり、真の祭司であり、真の預言者なのです。なので、そのイエス・キリストのお名前にはものすごい権威があり、イエス様のお名前は天の御国、御座を開けることができる鍵なのです。そして、イエスの御名によって悪霊が追い出されることになっています。イエスの御名の前ですべての万物が跪くようになっています。なぜでしょうか。イエスは唯一キリストなので。イエス様だけが人に霊的な問題をもたらす悪魔のしわざを打ち壊すことができるし、人が霊的な問題を患うしかない罪と地獄の運命から解放させることができるし、そして、光を失い、真っ暗な中でさまようしかない、答えが何かも、何が善で何が悪なのか、何が正しいか悪いかも区別できない、そういう盲目のような人生を歩いている私たちが、光であるいのちである神様と出会い、いのちの道を歩むことができるイマヌエルその方なのです。イエスはキリストです。弟子たちは残念ながら今の段階ではイエス様がキリストだということがまだはっきりと分かっていませんでした。それでイエス様が最後におっしゃいました。「なぜ私たちには悪霊を追い出すことができなかつたのでしょうか」。あなただからできないのです。

3) 祈りの他には(29)

その時にイエス様がおっしゃったのが、「この種のもの、祈りの他には追い出すことができない」。その「祈りの他には」というのはどういう意味なのでしょう。一生懸命祈ればできるという私たちがイメージしている、そういう祈りのことを言っているのでしょうか。そういうことではありません。今申し上げましたように、イエスがキリストだという信仰、この信仰の他には方法がありません。つまり、あなたがたにはそういう力などは存在しない。世にあるどのような方法でも工夫でも立派なやり方でもそれは無理なんだよ。神様の他にはできない。神様がキリストを通して神の国を臨ませること以外には方法がない。イエスがその主であるキリストだということを信じるかということ。その信仰によってのみ悪霊は追い出されるものなんだという意味で、祈りの他にはとおっしゃったのです。だから今申し上げましたイエスがキリストだという明確な信仰をもって祈りますと、マタイ 12:28 のことが起こるわけです。「しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです」。祈りによって、信仰によって。弟子たちはたぶんいろいろな方法を使って叫んだりしていたでしょう。イエスの名前を呼んだのかどうかわかりませんが、しかし、彼らはイエスはキリストという信仰によってイエスの御名を呼ぶということにはなかつたということです。祈りの他にはこの種のような問題の解決はありません。これが誰にも解決できないみんなが生まれ持つ霊的な問題の解決の鍵であり、いま私たちの耳に入ってくる物騒なさまざまな事件の根底にある霊的な問題、悪霊を追い出すことができる唯一の鍵なのです。イエスはキリストです。皆さんにとって問題をどうのこうの以前に、イエスを本当にキリストと信じて告白しているのかどうかを吟味しなければなりません。周りにどのような問題があり、どんな人間が自分を取り囲んでいても、それがどうのこうのという前に、自分が信じているイエス様、自分の内側に来てらっしゃるイエス様、そのイエス様はキリストなのかどうか、そこをいつも吟味して、それを優先しなければなりません。だから信仰は祝福なのです。

2. イエス様を信じる私を通してイエス様の権威が現れることを信じる信仰こそ、靈的癒しの力となる。

そして、もう一つ、イエス様をキリストと信じる人、そのキリストであるイエス様を信じる私を通してイエス様の権威が現れることを信じる信仰こそ、靈的な癒しの力であり、また靈的な癒しの実際になります。

これが信仰です。当然、弟子たちには、イエスがキリストという明確な信仰がなかったので、そのイエス様にあるキリストの権威が自分を通して流れ出るということは夢にも思っていない。ずっと前に弟子たちを町に送り出した時に、経験したにも関わらず、びっくりするだけなのです。それが不思議ないのちの祝福なのです。それが信じるということなのです。これが紙ですよと信じる、そういう信じるという意味ではありません。不思議な信仰の祝福なのです。どのような人間でも子どもでも大人でも、頭が悪い人間でも環境が険しい人間でも学歴のない人間でもある人間でも構いません。義人は信仰によって生きる、イエス様はキリストだということが分かって、イエス様をキリストと信じて受け入れたものは不思議なことにそのキリストの権威がその人を通して、その人の人格、実力、能力と関係なく流れ出て現れるようになります。それを権威と言います。それを信じるか、信じないかです。これを本当に信じてるのであれば、皆さんが学校に行く時に誰かと会う時に家庭に戻る時に姿勢が変わると思います。光としてのいのちとして、そこに向かうようになるわけですから。それを自分を愛するというわけです。ただ自分のことをどうにか大事にという肉体的な意味ではなくて、自分のアイデンティティがキリストのからだなるキリストとくっついていて、悪霊が見るとキリストに見える、そういう存在、いのち、光、そのものなんだと自分を認めること、それが自分を愛することです。だからこそ未信者のようにわがままに勝手にすることをしない。それがキリスト教の生き方です。道徳ではありません。どんなにひどい人間がいても、私はその人を生かすための答えになるイエス、いのち、光をもってそこに向かう存在なので、さばいたりすることなく一緒になって巻き込まれてワーワーすることもなく姿勢が態度が考え方がアプローチが変わるしかないのではないのでしょうか。すぐにそうならなくてもそういうものだと理解して祈ればいいのです。どのようにすれば悪霊が追い出されて靈的な問題が解決できるのでしょうか。その鍵となるキリストの権威が、天の御国の鍵であり、悪霊を追い出すその権威あるキリストの権威が自分を通して現れることを信じるかということです。なぜ信じないのでしょうか。自分のレベルで考えるからです。信仰の奥義が何か分かっていないからです。誰でも構いません。子どもでも構いません。信じる人にはこのようなしるしが伴われますとおっしゃいました。

1) マルコ 16:17、使徒 3:6、8:5-8、16:18

だから、マルコ 16:17 では、イエス様がこのようにおっしゃいました。「信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばを語り」。明確におっしゃいました。これを信じるかということです。わたしがではなくて、わたしの名によって、キリストの名によって。使徒 3:6 を見ますと、神殿の前で生まれつき足がなえていて施しを求めていた人に向かってペテロがこのように言いました。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と言ったのです。ペテロにそのような権威が授けられていたということを感じていたのです。ペテロが偉いからではありません。性格が悪いから、この権威が邪魔されるということはありません。つつい私たちは世の法則にしたがって、因果応報に締め付けられていたものなので、こうするからこうならないだろう、ああならないだろうと思うのですが、信仰はそういうものではありません。私たちは完璧に偉い人間になることは死ぬ時までたぶんないかもしれませぬ。それを諦めるという意味でもありません。聖霊の実りがありますので。しかし、自分の人格や性格、能力、実力等々に左右されるものではなくて、義人は信仰によって生きています。だから信仰は祝福なのです。私はこんな人間なのでダメというのは、その人の勝手な思いだけであって聖書にはそういう話はありません。皆さん全員にそういう祝福があり、そういう資格が許されている方なのです。問題を信じないからです。信じるだけです。信じるというのはテストもありません。何かを払うこともありません。何かを積むことで達成できるものでもありません。恵みによるものなので、信じるだけのことです。イエス様を信じるというのは、これほど凄い存在の変化で。だから最近、柳先生のメッセージの中で自分でとてもとても恵まれたフレーズがあります。答えがある以前に、救われたこと自体がもう答えなんだ。自分という存在そのものが答えなんだ。だから、その人が生きる人生すべての答えなのです。右に転んでも左に転んでも刑務所に行っても全部が答えなんだ。いじめられても答えなんだ…

と思いますか。それが救われることです。それがイエス様を信じるということです。それを信じて認めるかということです。なので使徒 8 : 5-8 を見ても、それが具体的に現れていました。「ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。群衆はピリポの話聞き、その行っていたしるしを見て、みなそろって、彼の語ることに耳を傾けた。汚れた霊につかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫んで出て行くし」。そこにイエス様が姿をもって現れたわけではありません。天の御座に座っていらっしゃる。ピリポというイエスがキリストであることを信じる自分にそのような権威があることを信じている人がキリストを語る時に、悪霊どもが大声を叫んで出て行きました。これが証拠なのです。パウロにもそういうことがありました。使徒 16 : 18、「幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊に、「イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け」と言った。すると即座に、霊は出て行った」。いくつかをピックアップしただけのことです。極端な場合は、パウロが気づいていないのにハンカチを落として、そのハンカチを触る瞬間、悪霊が出て行くということもありました。イエス様にあったことがそのままそっくり現れることの証拠だらけなのです。使徒の働きは。なぜでしょうか。パウロはイエス様ではありません。しかし、イエス様を信じて受け入れたというのは、パウロとイエス様と一つになるということなのです。私たちがイエス様を信じることは聖餐式を通して毎回確認しているように、イエス様がここにいらっしゃる私を助ける方ではなくて、イエス様は私の中に、私はイエス様の中に。いのちの関係なのです。それを信じると言います。イエス様を信じる私を通して、イエス様の権威が現れることを信じる信仰です。

2) ヨハネ 1:12、ガラテヤ 2:20、1 コリント 3:16、1 ペテロ 2:9

ヨハネ 1 : 12 には「受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」。ガラテヤ 2 : 20、イエス様を信じた瞬間、それ以前の私は死んで、今はキリストが私の中に生きているものに変えられるわけです。だから 1 コリント 3 : 16、あなたがたは聖霊が宿る神の神殿であることは分かっているのか。だから 1 ペテロ 2 : 9、王である祭司と言われるものになっているとあります。このようにイエス様を信じた瞬間、誰でもこのように変わるので、当たり前前にイエスのキリストの権威がこの人を通してあらわれる、そういうシステムに変わっているわけです。分かりやすく申し上げるためにシステムという言葉を使いましたが、イエス様が御座に座って、私は遠く離れていて、見守っていらっしゃるわけではなくて、そのイエス様が私のなかに私がその御座に、それをいのちと言います。動物にはない人間だけに許されているいのちというものです。いやいや、動物にも命があるではないでしょうか。それは一つしかありません。人間には二つのいのちがあるのです。だから人間なのです。肉の命は限りあるものであって、年をとると死んで終わりなのです。しかし、イエスのいのち。たましいのいのちは永遠に消えることなどありません。人間と動物と一緒に扱おうとする動きは本当に恐ろしいものなのです。かわいがって動物を飼うということとは意味が違います。一緒に扱うということは言語道断なのです。人間をどこまで下げれば気が済むつもりなのでしょうか。人間はそういう存在ではありません。神が宿ることができる神の神殿と呼ばれるものなのです。

3) 教会に集まって確認し、現場が教会となり、信仰による祈りにより人が起こされる。(霊的問題解決士)

なので、教会があり、礼拝の時間がある、みなで集まるということがどれほど大切なのか。牧師の言葉が達者なのかどうか別にして、こういうシステムを通して神様がメッセージを語るというのはどれほど大切なのかと言いますと、今申し上げました信仰の内容を教会に集まって礼拝を通して確認することです。それを確認できたときに、その人々が現場に戻ると現場がただの現場ではなくて教会になります。教会になります。このキリストの権威が現れる自分がそこに立っているわけですから。そのために教会があり、礼拝が許されているわけです。そして、現場がそのような教会だということが分かって、そこで信仰によって祈ると神様は人を起こしてくださいます。ほとんど期待などしないでしょけれども。でも、今日申し上げました、信仰の祝福を正しく理解して、教会に集まって礼拝するたびに、その信仰の祝福を確認する人であれば、現場に戻る時にそこに教会として戻るわけです。いくいくそれが建物があり、自分の家が教会になり発展していくでしょうけれども、その人そのものが教会としてそこに存在するわけです。学生が学校に行っても、ただ勉強する学生だけではなくて、イエスのいのちと光が放たれる教会としてそこに立つわけです。なぜなかなかそうならないのでしょうか。弟子たちのように、まだ信仰が明確になっていないので混乱しているからです。そこを課題にしてクリアしないとい

けません。神様が待っていらっしゃるのです。それで霊的な問題を癒してもらうために待っているたましいが起こされる時刻表が訪れてくるようになり、その時に皆さんは現場で学生や仕事の人間だけではなくて霊的な問題を解決する。霊的問題解決士であることが確認できるようになるでしょう。年上なのか下なのかなどは関係ありません。持っているか持っていないかだけなのです。皆さん周りの人は皆さんより年上なのか立派なのか階級が上なのか知識が豊富なかわかりませんがもっていません。みんな霊的な問題を抱えているのです。それを解決できる鍵を持っているのは皆さんだけなのです。それを教会と言います。霊的問題解決士ということは、＝教会、＝信徒で、それほど皆さんのアイデンティティ、存在そのものは意義あるものであり、とても価値あるものだとすることを忘れてはいけません。

しかし、残念ながら実際に弟子たちのように今を生きる信者にも弟子たちと同じようなレベルが多いのです。そして、その悪霊に取り憑かれた息子の親のように、「もしできるのであれば」と言ったときにイエス様が「できるのであればというのは何？信じる者にできないことはありません」とおっしゃったときに、その親が言いました。「不信仰な私をお助けください」。このフレーズを皆さんに当てはめて自分の気持ちにしましょう。これは素直な気持ちではないのでしょうか。さまざまな問題に対してどういう風にアプローチして対応しているのでしょうか。イエス様はキリストですよ。そのキリストの権威が私を通して現れるようになっていきますと信じるように助けてください。素直にそういう気持ちをもって祈りましょう。それで五旬節の聖霊の力が私に豊かに注がれるようにと祈ってください。それで不信仰の私が助けられるようになるでしょう。御座の祝福が臨まれて、皆さんの内側にあるサタンのやぐら砕かれて、神のいのちのやぐらが立つことで信仰が生まれます。

今日申し上げましたこのような信仰が私の内側で全きものになるように、五旬節のマルコのタラッパンに注がれた聖霊の力がの制御の力が私に注がれるようにしてください。サタンのやぐらが砕かれて、神のやぐら、信仰のやぐらが立つようにしてくださいと祈りましょう。なぜなら不信仰な私を助けてくださいという思いで。えらそうにしないで。それから、それを祈ると皆さんに確信が与えられると思います。そうすると迷わずに疑わずに、このイエスの御名を皆さんの家庭のために現場のために呼びましょう。特にレムナントの皆さんは、みなさんの家庭、家系というのが、温かい家庭なのかそうでないのか以前に、長い間、刻印、根、体質になって自分、肉、この世中心のもの、家系の流れというものがあるんですね。その霊的な毒のようなものを抱えているのです。その家庭に向かってつまずいたり、「なんでこうなの？」と思わないで、「なるほど。信じてイエスの名で家庭に働いているすべての暗闇の勢力が砕かれるように」と祈りなさい。現場にさまざまなことがあるでしょうが、現場を見る目が開かれないういけません。暗闇に囚われているのです。だからイエスの名によって現場を捕らえている暗闇の力が全部砕かれるように疑わないで祈ってください。疑わないで。すぐにどういう結果がどのように現れるか、それは私たちが気にすべきものではありません。これを祈っていない者は、つつい状況に左右され、つまずくようになります。そして、そうすると時刻表に合わせて神の答えが現れます。あらゆる形で。その時に何かに制限されることなく、私にあるイエス様を差し出すようにしましょう。信仰によって。自分がどうのこうのは全く気にしないで、ペテロのように金銀は私にはない。私にあるものを。あなたのために十字架で死なれて、あなたのいのちになるその方が私の中にいらっしゃる。私にあるものをあげようとイエスを差し出せばいいのです。自分がどうのこうのと関係ありません。今日の聖書に出ている弟子たちにこのような信仰が欠けていました。だから私たちは、この信仰さえ回復すればよいのです。弟子たちのように、「なぜ私にはできないのでしょうか」という質問などいらないでしょう。

「主の御名をほめたたえます」という結果になると思います。だから、一番大切な祈りは、「不信仰な私を助けてください」です。素直に。それで五旬節の聖霊の力が私に臨まれました。御座の祝福が臨まれました。今日のメッセージを通して聞いてこの信仰、霊的な問題を解決することができる信仰、悪霊を追い出すことができるこの信仰が全きものになり、暗闇のやぐらが砕かれて、信仰のやぐら、神のやぐらが立つようにしてください。ということを真剣に祈るようにしましょう。その後はついてくるものですから。それで現場、家庭につまずくことなく、曇らないで権威あるイエスの御名を呼びましょう。何がどういうことが起きるか、体験しないといけないのではないのでしょうか。皆さんはその十分な資格を持っています。皆さんによって、この信仰の祝福が具体的に現れることを主の御名によってお祈りをいたします。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。今までの法則や自分自身に囚われ、また制限されることで霊的な問題から自由にならないし、また霊的な問題を解決すべき祝福の存在なのに、それとはほど遠い人生を歩いていました。今日のメッセージを期に、人生のターニングポイントにして信仰を祈り、この信仰をしっかり持って霊的な問題解決士としての残りの生涯を歩いていけるように豊かに祝福を与えてください。信仰のほかのすべての条件が砕かれるようにひとりひとりを豊かに祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン